

令和7年度 学校自己評価システムシート （さいたま市立 土合 小学校）

学校番号 016

【様式】

学 校 教 育 目 標	たしかな学び あたたかい心 すこやかな体 ゆたかなかかわり合い
目 指 す 学 校 像	あいさつと笑顔があふれる、信頼と潤いのある学校
重 点 目 標	1 学ぶ喜びのある生き生きとした学校（「自立した学び」の育成、ICT教育の充実） 2 安心して通える、対話ができる学校（心のサポート体制の充実、不登校児童への対応の充実） 3 家庭や地域とところが通い合う学校（コミュニティ・スクールの推進） 4 安全で落ち着いたきのある、美しい学校（安全教育の充実、安全管理の徹底） 5 児童の学びを支援する教職員が集う学校（わかる授業、学び続ける教師、研修の充実）

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番 号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果をみると、どの教科も全国・市の平均正答率と同程度の平均正答率であり、概ね良好である。 ○落ち着いて学習に取り組み、しっかりと話を聴いて授業に取り組むことができる。 (課題) ○令和6年度市学習状況調査において、3年生、5年生、6年生の「書くこと」が市の平均正答率より下回った。算数の「データ活用」で5年生が4P、6年生が5P下回った。	・個別最適な学びや協働的な学びを軸とした主体的な学びの展開	・「学びのじ・し・や・く」に示されたアクティブラーニングの学習を展開し、自走できる児童を育成する。 ・自分の学力をデータで確認しながら学びに取り組む姿勢を確立するため、データ活用の力を育成する。	①学びの指標「主体的な学び」の学校平均数値が 3.3 を超えたか。（昨年度 3.4）					
		・教育 DX を展開し、児童のデータ活用に重要視した授業の実践	・校内での授業実践における活用例を校内研修の時間を利用し共有し、活用方法についての理解を深める。	①市学習状況調査（生活習慣）「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりすることができた」が市の平均以上となったか。					
2	○令和6年度市学力学習状況調査（生活調査）「いじめはいけないこと」の肯定的回答は市の平均を超えた。 ○令和7年度に入り、不登校傾向にある児童の出席率が昨年度より向上している傾向にある。 (課題) ○長欠児童がおり、保護者との連絡がなかなかつながらない家庭がある。 ○配慮を要する児童への組織的な対応が必要である。	・児童一人ひとりを大切にしたい心のサポート体制の構築	・年度当初に、全教職員で共通理解・共通行動をとれるようにするため、保健面と行動面について、児童理解研修を実施する。 ・迅速な対応を徹底するため、「心と生活のアンケート」を確実に実施する。	①児童理解研修（保健、児童理解行動面）を実施し、児童の情報を共有することができたか。 ②毎学期の心と生活のアンケートの報告が開始後1か月以内に管理職に報告できたか。					
		・不登校傾向にある児童に対する学習支援	・対応の難しい児童については、積極的にケース会議を実施し、組織的な対応をする。	①対応の難しい児童に対して、ケース会議を開催できたか。 ②生徒指導委員会や教育相談委員会において資料を活用し効率的な運営が実施できていたか。					
3	○地域全体で児童を育成するために学校・地域・保護者が連携し、学校運営協議会の会議や熟議を通して、「学校を軸としたあいさつが響き合う家庭・地域づくり」に取り組んでいる。 ○学校評価「家庭や地域と心が通い合う学校づくり」に対する肯定的評価は95%と高い数値であった。 (課題) ○地域の行事への参加意欲は高まっているが地域貢献の意識については不十分な点も見られる。	・学校運営協議会を中心とした、地域との連携強化	・学校運営協議会を3回開催し、学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか実効性のある熟議を実施する。	①学校運営協議会を3回実施したか。 ②学校評価「家庭や地域と心が通い合う学校づくり」の肯定的評価90%以上の維持					
		・社会に開かれた教育課程を実践する教育活動の発信	・学校だより、学校HPにて学校経営状況や方針、地域の考えや活動について積極的に発信し、児童の実態などの情報も合わせて保護者や地域と情報を共有する。	①学校HPにおいて年間10回以上学校経営や学年経営、保健領域、給食領域に関する情報を発信できたか。					
4	○令和6年度の学校評価「安全で落ち着いたきのある学校づくり」に対する保護者の肯定的評価が96%、「安全、保健指導」に対する肯定的評価が96%と高い評価を得ている。 (課題) ○学校施設が50年以上前に建設されたものであり、修繕が必要な個所が増えただけでなく、教室の出入り口のドアなどの構造上の問題が散見される。	・学校施設の老朽化に伴う計画的な修繕を行う予算運用	・毎月の安全点検を基にした必要な修繕への対応を安全部、事務担当と連携して行い、計画的な予算執行をすすめる。	①学校評価「安全、保健指導」に関する肯定的評価90%以上の維持 ②安全点検を基に、施設の安全維持のための予算執行を行うことができたか。					
		・事故を未然に防ぐ安全な学校づくり	・毎月の安全点検を「担当、管理職、事務、用務員の複数の目」で実施する。修繕や改善が必要な場合の迅速対応を行う。	①毎月の安全点検、修繕必要箇所一覧表の作成を確実に実施し、すべての修繕必要箇所に対し、2週間以内に修繕計画を作成できたか。					
5	○学校評価「基礎学力を身に付けさせる指導」については保護者の肯定的評価91%「自分の考えをもち、自分のことばで正しく表現する力の指導」の肯定的評価は90%であった。 ○令和6年度市学習状況調査生活調査項目「先生に質問することができるか」では80～90%と高評価であった。 (課題) ○教職員個人の課題を達成するための研修方法や研修時間の確保が不十分である。	・教職員の授業力向上や生徒指導の充実を目指した主体的な校内研修の実施	・校長、教頭による教職員の授業参観を実施し、教職員に指導助言を行う。 ・校内研修の機会を利用し、児童の実態に応じた基礎学力の向上や学習規律の構築についての研修を行う。	①学校評価「基礎学力を身に付けさせる指導」に関する肯定的評価90%以上の維持					
		・教師個人のキャリアアップをめざす、個人の研修の支援	・全国教員研修プラットフォームを活用した研修奨励を行い、個々の教職員が自らの課題を意識した授業研究を年間3本以上実施する。	③年次研修や指導訪問等の機会を利用し、授業研究を3本以上実施できたか					